

発行
北海道ポーランド文化協会

〒060-0018
札幌市中央区北 18 条
西 15 丁目 3-19 安藤方
電話・FAX 011-556-8834
hokkaidopolandca@gmail.com

POLE

第 94 号 2018.4.10
北海道ポーランド文化協会 会誌

北海道ポーランド文化協会
東京事務所

〒107-0052
東京都港区赤坂9-6-29-309
音響計画 (株) 霜田気付
電話 03-6804-1058
FAX 03-6804-6058

♪ 《創立三十周年記念演奏会》 ♪

北海道ポーランド文化協会
創立三十周年記念演奏会

2018年6月23日(土) 17:00開演
16:30開場

札幌コンサートホールKitara 小ホール

入場料: ¥2,000

本協会創立 30 周年を記念し、会員の中の演奏家有志の力を集めて、ポーランドの作曲家のピアノ曲・声楽曲を通してポーランド音楽の多様な魅力に迫ります。

会員の皆様お誘い合わせてのご来場で演奏会を盛り上げていただけますようお願い申し上げます。

会場:札幌コンサートホール *Kitara* 小ホール

日時:2018年6月23日(土)17:00~20:00(開場 16:30)

入場料:2,000 円、チケットは出演者か運営委員からお求めください。

ご予約・お問い合わせ先 011-556-8834(安藤)

(ピアノ)

安藤むつみ ショパン / 子犬のワルツ、雨だれ
國谷聖香 パデレフスキ / ノクターン、幻想的クラ
コヴィアク
徳田貴子 バツェヴィチ / ピアノソナタ No.2 より
川本彰子 ショパン / バラード No.3
水田香 ショパン / バラード No.4
西村範子 ショパン / バラード No.1
坂田朋優 マギン / トゥリップティック・ポルスキ
田口綾子 バツェヴィチ / ソナチネ
川染雅嗣 シマノフスキ / エチュード、ショパン /
エチュード

(声楽)

高橋可奈子(伴奏)黒田佳奈子 シマノフスキ / ク
ルビエ地方の歌より
松井亜樹(伴奏)高橋健一郎 ヴィアルド / ショパ
ンのマズルカによる歌曲集

(ピアノ)

坂田朋優、本田真紀子 ショパン / 2 台のピアノの
為のロンド
名取百合子、高島真知子 タンスマン / ヨハン・シ
ュトラウスのワルツによる幻想曲

(お話) 三浦洋「現代に生きるショパン」



創立 20 周年記念ピアノコンサート (2008.5.17)



創立 25 周年記念コンサート (2012.5.12)

〈創立 30 周年記念演奏会、Kitara 小ホール、2018.6.23 より〉

現代に生きるショパン

三浦 洋

本日は、本協会創立 30 周年記念演奏会にお越しいただき誠にありがとうございます。

プログラムには、ショパンをはじめパデレフスキ、シマノフスキ、バツェヴィチ、タンスマンら、ポーランドの代表的な作曲家の作品がずらりと並んでいます。こういう演奏会は国内では大変珍しく、その意味ではどの曲も聴く価値のある作品ばかりですが、プログラムの中でとくに目立つのはショパンのバラードだと思います。全部で 4 つあるバラードのうち 3 曲が演奏されますので、聴き比べる楽しみがあります。第 1 部でお聴きいただいた第 3 番と第 4 番はショパンの成熟期の作品であるのに対し、次に弾かれる第 1 番は若い頃のショパンが自分の音楽を模索している時代の作品、いわばショパンがショパンになっていこうとする時期の傑作です。

実は、この曲は 230 曲以上あるショパンの作品の中でもおそらく最も時間のかかった作品で、完成までにざっと 5、6 年かかっています。21 歳のころに作曲しはじめ、26 歳のときに楽譜が出版されたのですが、「バラード」というまったく新しいジャンルの音楽を作ろうとショパンが思い立ったのはもっと早く、十代の頃だろうと推測されています。当時、ポーランド(リトアニア)にミツケヴィチという大詩人がいて、バラードとかロマンスと呼ばれる物語性を持った詩を書いていました。ショパンはこの詩人から影響を受けて、器楽のジャンルとしては歴史上はじめてバラードというものを構想したと考えられています。

その最初が第 1 番ですから、ショパンはバラードをどんな音楽世界にするかを考え、推敲に推敲を重ねて完成させたわけですね。私は、完成度の高いこの曲のおかげでピアノが芸術音楽として普及したという面がかなりあるのではないかと思います。何を表現しているのだろうと考えさせる深い芸術性を持ちながら、同時に適度な親しみやすさもあって、この曲をテーマにした漫画も描かれ、ピアノコンクールの課題曲としても定番になっています。

そして、この曲は今年また特別な活躍をしました。皆様ご記憶かと思いますが、今年 2 月に開催された平昌オリンピックでフィギュアスケートの羽生結弦選手が、ショートプログラムでバラード第 1 番を使いました。羽生選手は数年前、ショートプログラムで世界最高得点を記録した時にもこの曲を使い、その時の感触がとてもよかったですので平昌でも再び使ったのだそうです。しかし最初に使ったときには、

かなり苦労されたようです。この曲は、標準的な演奏で 9 分か 10 分かかっていますが、ショートプログラムはわずか 2 分 40 秒ですから、使えるのは曲の 3 分の 1 以下です。そのため羽生選手は、曲の最初と最後をうまくつないで使っていました。

この曲は最初と最後に特徴があり、音楽用語で「ナポリ 6 度の和音」と呼ばれる、ちょっとエキゾチックな響きの和音が使われています。出だしの部分は、「昔々あるところに…」と物語を始めるような 7 小節の序奏なのですが、そのときにナポリ 6 度の和音が響いて、これから現実の世界を離れて物語の世界に入りますよ、という雰囲気醸し出します。そして、主部でバラードの劇的な物語が展開されると、また最後にナポリ 6 度の和音が響き、もうすぐ物語が終わって現実に戻りますよ、と知らせる構造になっています。ですから、羽生選手は、この曲の最初と最後の特徴的な部分を生かしながら、中ほどの劇的な部分を濃縮して、大変うまくバラード 1 番を再構成しているといえます。音楽は沈黙から始まって沈黙に終わりますので、静止から始まって静止に終わるフィギュアスケートとは実に相性がいいかと、羽生選手の演技を見るたびに思います。

バラードという言葉はもとラテン語のバラレーという言葉からできたもので、踊るとか回転するとかいうのがもとの意味です。フランス語のバレエとか、英語で舞踏会を意味するボールも最初の 4 文字が ball で語源はバラードと同じですから、回転わがが多く、踊りの要素に富んだフィギュアスケートに羽生選手がこの曲を使ったのは、本当に天才的な直観だと思います。それに、この曲の中心部の 4 分の 6 拍子は、ドラマティックな羽生選手の演技に実に合ったリズムだと思います。羽生選手には国民栄誉賞が贈られることが決まりましたが、ショパンは 180 年後に自分の曲がフィギュアスケートに使われるとは夢にも思わなかったでしょう。

もうひとつ平昌オリンピックの話をお話させていただきますと、フィギュアスケートをテレビで見ているとしたのは、ベートーベンの「月光」ソナタ嬰ハ短調を使った選手がいて、同じ日にショパンの遺作のノクターン嬰ハ短調を使った選手もいたことでした。ショパンの名曲には#が 4 つ付く嬰ハ短調で書かれた曲がとても多いのですが、私はこれが「月光」ソナタからの影響ではないかと以前から考えています。先ほど申し上げたナポリ 6 度の和音は「月光」ソ

ナタでも使われていますから、「月光」ソナタとショパンの遺作のノクターンが同じ日に登場したことが単なる偶然とは思いませんでした。本日の演奏会では遺作のノクターンこそありませんが、第2部の最後で弾かれるエチュード作品 25-7もこの嬰ハ短調ですので、この調独特の心に染みるようなノスタルジックな雰囲気味わっていただけでしょう。

今日のプログラムには、もうひとつとっておきの曲があります。それは第3部でお聴きいただくポーリーヌ・ヴィアルドの歌曲です。ヴィアルドはパリでショパンにピアノを習った女性ですが、もともと家系はスペイン人で、旧姓をガルシアといい、恵まれた音楽一家に育ちました。3オクターブ半の声域を持つメゾソプラノ歌手として有名になりましたが、作曲も手掛け、絵も描けば、数カ国語で詩も書くという多才の人で、ベルリオーズやブラームスから絶讃されたほか、ロベルト・シューマンの妻クララ・シューマンは「私がかつて出会った最も才能ある女性」といっており、ロシアの文豪ツルゲーネフを虜にした女性としてもよく知られています。

このポーリーヌは、ショパンと暮らしていたフランスの女流作家ジョルジュ・サンドからも一目置かれていて、サンドの仲介でレイ・ヴィアルドというパリのオペラ劇場の監督と結婚しました。二人の結婚式にはショパンとサンドがそろって出席し、ほとんど仲人の役を果たしたようですから、いかに彼らの人間関係が親密だったかがわかります。

こんなふうにはショパンたちと親しかったポーリーヌは、ショパンのマズルカから名曲 12 曲を選びだし、フランス語の歌詞をつけて歌うという、それまで誰も思いつかなかったことをしました。記録によりますと、ショパン本人がピアノ伴奏してポーリーヌが歌うとい

う、夢のようなコンサートが、ショパンの生涯の絶頂期にあった 1842 年 2 月にパリでありましたし、ポーリーヌはいなかったものの、ショパンの生涯最後のコンサートに当たる 1848 年のロンドンでもこの作品が取り上げられたそうですので、ショパン公認の作品といってよいと思います。

このあと松井亜樹さんが歌われるのはその中の 2 曲で、作品 33-2「Aime-moi 私を愛してください」と作品 7-3「Faible coeur 弱い心」です。私はこの歌を CD でしか聴いたことがなく、ライブで聴くのは今日が初めてですが、松井さんもこれらの曲を歌われるのは初めてだそうですので、今日お越しの皆様は本当にラッキーだと思います。松井さんはこれまで、ショパン自身が作った歌曲を数多く歌ってこられたので、そのご経験が今日の歌唱に活かされるにちがいありません。

最後に、今年 2018 年は、18 世紀末に消滅したポーランドという国が第一次世界大戦後の 1918 年に独立を回復して 100 年という、特別な記念の年に当たりますので、ポーランドの音楽を集めたこの演奏会を開催できることは大変うれしいことで、きっと天国のショパンも喜んでくれていると思います。どうぞ最後まで演奏会をお楽しみください。

(みうら・ひろし)



創立 30 周年記念演奏会の出演者



ポーランド&ニッポン歳時記



錫婚式

結婚十周年を迎えました。節目の記念日は家族が集まる良い機会です。皆たいい様々なプレゼントを持ち寄りますが、今回その中にはチェリーとクランベリーがありました。さっそくチェリーはパイにし、クランベリーからはジャムを作りました。

przelotny deszczyk	雨やどり
owady się schroniły	我が家の軒で
pod naszym dachem	虫の群
Monika Tsuda, Poznań	ポズナン市、津田モニカ

pod mgiełką skryty	雲の間に
taniec marsa z księżycem	月夜とダンス
ponad drzewami	火星かな
Piotr Wrzeciono, Warszawa	ワルシャワ市、ピョトル・ヴジェチョノ

呑み干すはラムネに溶けし憶ひ出よ
 バラ園のバラの呼吸で蝶とべり
 扉開け本尊引つ越し夏の寺

岩見沢市、霜田千代磨